



島田 果歩 (しまだ かほ) 上柚木小 4年生

作品名：「ココロ屋」を読んで

図 書：ココロ屋

ココロ屋の本のあらすじに「ココロって取りかえられるの？ぼくは、ココロ屋の『やさしいココロ』と自分のココロを取りかえてみた」と書いてあって、わたしもココロ屋に会ってみたい、いろいろなココロになってどうなるのが知りたいと思って読み始めた。

わたしは「やさしいね。」と言われることが多い。言われてうれしいけど、わたしは自分がやさしくないココロを持っていることを知っている。はらが立った時はココロの中でいじわるなことを思ってしまう。後からいじわるなことを思ってしまった自分がキライになる。だからやさしいだけのココロを持ちたいと思っていた。ひろきくんがやさしいココロだけを持った時、うらやましいと思った。でもみんなひろきくんからはなれてしまうなんておどろいた。この本を読んで、やさしいだけではダメなこともあるのだと分かった。

その後、すなおなココロだけ、あたたかいココロだけでもダメなことに、またおどろいた。ココロ屋を読んで、一つ一つのココロだけではよいココロはできないこと、つめたいココロのようなよくないと思うココロもひとつなのだと分かった。

「いろんなココロがちょっとずつまじりあっているから、ぼくはいろんな気持ちを感じて、ああしようとか、こうすれば良かったとかって、考えることができたんじゃないのかな。それに、ぼくは失敗をするたびに、変わりたいと思う。それは、ぼくのココロが、成長しようとしているせいかな。」というひろきくんの言葉を聞いて、自分のココロは他人から無理やり変えさせられるものではなくて、自分が変えたいと思わないと変わらないものだと思った。

今、わたしはへらしたいココロがある。それはせまいココロだ。たとえばドッチボールで遊んでいる時に友達が線をふんでしまったら、それにはらが立ってドッチボールが楽しくなくなる。それから授業中にふざけている人にイライラする。だからこれからはもっとひろいココロをふやしたいと思っている。

でも成長してきたココロもある。それはこわがりなココロだ。去年の夏休

み、おじいちゃんの家に行くために飛行機に乗ったら、自分より小さい子が一人で乗っていた。すごく勇気があると思った。わたしも少し勇気を出してこわいことやきんちょうすることにチャレンジしてみようと思った。まだまだこわがりだけど、少しでもチャレンジしてみようと思うことがふえた。一人ですばんができるようになったし、気球にのってみたりもした。勇気のココロがふえたと思う。

わたしの家族、友達、先生、テレビで見る人、知り合いの人、わたしのまわりにいる人みんながココロ屋のようなものなんじゃないかなと思った。みんなとココロをこうかんするわけではないけれど、みんなのえいきょうを受けてココロが変化しているからだ。

自分のココロは生まれた時からある。自分のココロを作るのは自分。こんな自分になりたいと思った時、今までとはちがうココロに変化するのだと思う。だからわたしは世界に一つしかない大好きな自分のココロを作っていきたいと思う。